

私学助成署名推進ニュース

全国私立学校教職員組合連合
No.15 2016年11月4日(金)

10/29 広島 秋の教育のつどい 岡山の高校生が参加し触発の連鎖を生む 「何かを始めなければいけない、そう思わされた」…高校生にだけでなく大人をも触発する基調報告

10月29日、広島市南区民文化センターを会場に、「広島県のゆきとどいた教育をすすめる秋のつどい」が開催されました。今年の大きな特徴は、隣県から「岡山県高校生サミット」の3役高校生が参加し、広島の高中生、教職員、父母を前に基調報告を行ったことでした。パワーポイントを用いた3名の高校生による基調報告は、しっかりと準備された説得力のある内容で、参加した高校生はもとより教職員、父母をも触発する発表となりました。この翌10/30に大阪で開催された「大阪私学デー」にも、愛知の「JK8」が参加し報告を行っています。

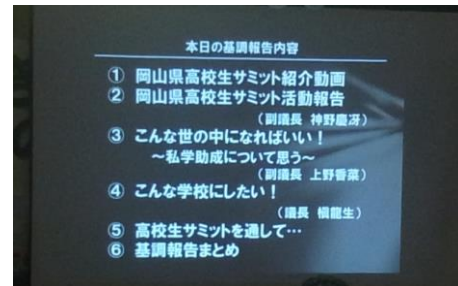
公立と合同の「つどい」のため、益子原広私教委員長による経緯説明と岡山の高校生を紹介からスタートしました。



益子原広私教委員長による岡山高校生による基調報告 設定のねらい

私学では、学費問題の当事者である高校生が声を上げることが大切だと考えている。全国でその先駆となっているのが愛知。毎年5月の愛知新入生歓迎フェスティバルで全国高校生サミットが開かれている。そこで学ぼうと岡山がバスを仕立てて高校生が参加した。そして触発を受けた高校生が岡山の運動を大きくしている。その思いや成長の様子を学ぼうと考え、岡山から高校生をお招きした。

紹介を受けた後、高校生はパワーポイントを使い、この日の基調報告の章立てからはじめ、担当パートを語っていきました。今回参加の3名はともに2年生。昨年の「高校生自転車ピースリレー」への参加の経緯から岡山県高校生サミットの取り組み内容、そしてその中で自身の成長までを語っていきました。



「岡山県高校生サミット」3役 左から
上野副議長、 榎議長、 神野副議長

神野副議長

最初から積極的だった訳ではない。教室という狭い世界で生きていた。先生から「もっと外へ出なさい。世界にふれて視野を拓けなさい」と言われた。昨年、訳もわからないまま「自転車ピースリレー」に参加した。充実感があつたが、まだ平和を引き継ぐといった意識は無かった。12月の「未来」集会と銀座パレードに参加した。しかし、自分の言葉では語れなかった。先生から「自分で動いていないから語るものが無かったからだ」と指摘された。今年は春、第1回サミットで私学助成について学び、夏の高校生交流集会で発信しようと思ったが、まだ足りなかった。大人の平和分科会に参加して新たな視点も学んだ。夏、第2回のサミットで広島の江種講演を聴いて平和について学び、平和についてどう伝えるか、今考えている。

上野副議長

自分は今年からこの取り組みに参加。春の全国高校生サミットに参加し刺激を受けた。自分の意見を持っていないという事を自覚させられた。愛知の高校生を見て、なぜあんなに行動できるのだろうと思った。そこで春の第1回サミットで授業料補助の差、経常費助成の差など私学助成について学んだ。自分は運動部のマネージャーをしているが、部員で母子家庭の子が学費のために部活と並行してバイトをし、やがてそれだけでは足りずに退部していった。こんな状況はなくさなくてはダメだ。自分も私学を専願したが「学費が高いのは仕方がない」と考えていた。しかし「仕方がない」と考えさせる社会がおかしい、と気づいた。11月には「MOVE2016」の取り組みを行う。私学助成の特別分科会を設定し、その後2カ所の駅で街頭署名を行う。



堂々と報告する3名の高校生

榎議長

「こんな学校生活にしたい」という希望は、(1年前の3/20に一度消え去ってしまった。経営について学びたいと考え県立の高校を志望していたが、その公立に落ち、今の私学へ入学した。岡山では「私学へいくのは勉強していない証拠」と見られる。入学式の日を下を向いて登校した。しかし、最初の個人面談で自分の夢を正面から受け止め認めてくれる担任と出会った。行事をとおして「全力」という事を教えてくれた。そのおかげで教室は全ての生徒が自分の夢を堂々と話せる空間になっている。そんな中5/4の愛知新歓フェスへ参加し、「自分たちを取り巻く社会問題と向き合い、自分たちの意見を述べる」愛知、京都、東京、神奈川の高校生と出会った。なぜあのように自分の意見が言えるのか。岡山も高校生サミットの取り組みをとおして学校では学べない「人」としての成長を手に入れたい。

この岡山県高校生サミット3役からの基調報告を受けて、広島の高中生も広島の活動を報告しました。

昨年の自転車ピースリレーで「しまなみルート」を走った和田さんが報告に立ちました。**和田さん**は参加している平和ゼミナールの活動の一環で取り組んでいる「憲法劇」で、自身が演じた高校3年生が、大学の学費が払えず、自衛隊への進学をすすめられる場面と、そこで描かれている「経済的徴兵制」の問題についての報告がありました。



こうした、高校生の報告の後、会場ではグループ討議が持たれました。各グループに参加した高校生は大人からの質問責めに会う形となりました。

長年続けてきた私学助成拡充の運動に「未来」を築く高校生が当事者として登場し、県を越えて交流して拓がっていることを大人が知る機会となりました。公立高校の代表者は閉会のことばで「大人も何かははじめなくては、と思わされる集会となった」と締め切りました。

